大分大学　アセスメント・チェックリスト

学部	理工学部	学科	理工学科

最終更新日	令和 6 年（2024 年）11 月 26 日

ディプロマ・ポリシー		
1	専門的知識・技能の活用	文化，社会，自然などの幅広い教養を備え，さらに理工学分野における専攻領域の専門知識・技能と分野を俯瞰する視点を有し，これらを横断的・総合的に活用することができる。
2	コミュニケーション能力	日本語や外国語により，多様な人たちと，科学的な内容をふまえて，意思疎通をすることのできるコミュニケーション能力を備え，他者と協調してチームの一員として活動し，その成果を適切に文章やプレゼンテーションにより発信することができる。
3	創造的問題解決力	輻輳した現代の課題に対し，総合的な視点から個人または他者と協働して課題解決に取り組み，理工学的観点から，解決方策の提案や解決への活動に貢献することができる。
4	社会的責務と倫理	理工学分野の技術者，研究者，教育者としての高い責任感と倫理観を備え，自らの良心と良識に従って行動することができる。
5	地域発展・人類福祉への貢献	人類の福祉や地域社会のため，理学・工学の視点から課題解決に貢献することができる。
6	生涯学習力	変化の激しい時代に対応し，技術者，研究者あるいは教育者として，課題解決に必要な知識を生涯にわたり主体的に学修することができる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が，学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が，学位授与方針及び教育課程方針に則して，体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して，適切な授業形態，学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して，適切な履修指導，支援が行われていること
6	教育課程方針に則して，公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して，公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して，適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名　称	実施時期	実施頻度	対　象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準							
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8
1	実施中	数学プレィスメントテスト	数学プレィスメントテスト	4 月	毎年	1 年生	プログラムごとの平均･取得点分布	●		●		●	●	教務委員会	教務委員会	入学時のスコアによる学生の数学レベルの確認と数学の授業のクラス分けに活かす。			●	●	●			
2	実施中	Web アンケート	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	授業満足度，取組み状況，要望	●	●	●	●	●	●	学生	教育マネジメント機構教学マネジメント室	学生による授業評価と省察を次年度以降の授業やカリキュラムの改善に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	成績判定資料（取得単位とＧＰＡ）	単位取得状況調査	学期終了時	年 2	全学年	単位取得状況(カリキュラム上の達成度)	●	●	●	●	●	●	授業担当教員	プログラム長 教務委員 指導教員	教育目標の達成度を学業成績に基づき客観的に把握し，成績不振学生の指導やカリキュラムおよび講義内容の改善に利用する。			●	●	●	●	●	●
4	実施中	成績分布表	成績分布の適切性の検証	7 月～9 月	毎年	全学年	成績評価の分布	●	●	●	●	●	●	プログラム全教員	教育マネジメント機構教学マネジメント室	成績評価の偏りを見つけ出して，厳密な評価が実施されているかどうかを確認するとともに，教授内容の変更や指導方法の改善に向けて提案を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	客観試験	PBL 型授業でのプレゼンテーション	1 月	毎年	2 年生, 3 年生	PBL 課題の理解度，自ら説明する能力	●	●	●	●	●	●	プログラム全教員	プログラム長	次年度以降の実験科目を含めた PBL 型授業に活かす。			●	●	●	●		
6	実施予定	質問紙	進路希望調査	3 年次後期	毎年	3 年生	進路希望調査（進学・就職の別、希望職種、活動状況）				●	●	●	就職委員	プログラム長 就職委員	学生の希望する進路を的確に把握しながら，次の時代の社会を担う人材の育成にも資するために，カリキュラム上の不足，障害，不適合などを整理する。			●		●			●
7	実施予定	成績判定資料（卒研着手要件判定資料）	留年／進級調査	3 月	毎年	3 年生	単位取得の確認と留年・休学・退学の学生数とその理由	●	●	●	●	●	●	プログラム全教員	プログラム長	成績不振者・留年生への面談指導，学習支援，メンタルヘルス支援を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施予定	客観試験	卒業研究発表	2 月	毎年	4 年生	技術的・科学的理解力，プレゼンテーション力，報告書作成力	●	●	●	●	●	●	プログラム全教員	プログラム長	自ら課題を探求し，解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を評価する。その結果を次年度以降の卒業研究指導に活かす。	●	●	●	●	●	●	●	●
9	実施予定	Web アンケート	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	3 月	毎年	卒業予定者	カリキュラムや学生支援の満足度，施設・設備等の満足度の評価	●	●	●	●	●	●	学生	教育マネジメント機構教学マネジメント室	翌年度以降のカリキュラム編成および学生指導体制の改善に利用する。	●	●	●	●	●	●		●
10	実施予定	実習評価表	教育実習評価	3 年，4 年の教育実習終了時	毎年	教育実習参加者	教育実習に対するカリキュラムの有用性	●	●		●	●	●	指導教員	プログラム長 教務委員 教育実習委員	代表的な教育実践の場である実習校において，身につけた知識，社会性，倫理観などが生かされているかをチェックすることで，今後の指導の力点などを考える。			●	●	●			●

11	実施中	外部機関における評価	JABEE 認定評価	秋	6 年毎	専門教育カリキュラム（知能情報システムプリグラム，機械工学プログラム，建築学プログラム）	認定基準に対応する学習･教育到達目標（DP に対応）をカリキュラムが満たしているかを評価, 各科目のパフォーマンス評価, 厳密な成績評価が行われているか確認	●	●	●	●	●	●	JABEE 審査員	日本技術者教育認定機構（JABEE）	自己点検および実地審査によるプログラム点検により問題点を抽出し，カリキュラム編成の改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●